

幼小接続の実態と課題

大江 康夫・永利 陽一

九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2017年5月29日受付、2017年7月4日受理)

要 旨

幼小のスムーズな接続は、自治体によって差はあるものの、幼児教育・小学校教育の段差の解消に向けての取り組みがかなり進んできている。特に幼小の交流会は（地元の幼稚園に限って言えば）、ほとんどの幼稚園で実施されている。しかし、その次のステップである接続カリキュラムの作成となると、まだまだ不十分な状態であると言えよう。本研究は、幼小のスムーズな接続のための取り組みの実態を調査するとともに、幼小の交流会に焦点を当て、段差の解消に向けた交流会の在り方について考察し、その課題を探ることにある。

第1章 研究の背景と目的

1 研究の背景

文部科学省（以下、文科省）は次期幼稚園教育要領案を平成29年2月に公表した。それによると現教育要領よりさらに進めた形で、小学校とのスムーズな接続を進めていく方向性を明らかにしている。幼小接続が注目されている直接的な背景には、授業中に席につけない、勝手に歩き回ったりする、教師の話を聞かず授業が成立しないなどの小1プロブレムの問題がある。小1プロブレムが問題となったのは、1990年代であった。その原因として、国立教育研究所では平成12年度「学級経営をめぐる問題の現状とその対応」とした ①家庭のしつけ ②小学校での指導方法 ③学校と保護者の信頼関係の構築など10項目を分類して示している。学校現場に起因するものとしては、幼稚園と小学校との段差が問題となる。同じ接続の問題を抱えている中1プロブレムとはその中身と原因は異なり、幼小で問題となるのは指導内容・指導方法が異なるという問題である。

平成22年に幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方についての報告が出されたが、それによると幼児期の教育と児童期の教育は、それぞれの段階における役割と責任を果たすとともに、子どもの発達や学びの連続性を保証するため、両者の教育が円滑に接続し、教育の連続性・一貫性を確保し、子どもに対して体系的な教育が組織的に行われるようにすることは極めて重要であると提言している¹⁾。しかしながら同じ報告書では、ほとんどの地方公共団体が幼小接続の重要性を認識しているものの、その取り組みは十分とは言えず、市町村教育委員会の80%において幼小接続のための取り組みが行われていないという調査結果を出している。その理由として ①接続関係を具体的にすることが難しい（52%）②幼

小の教育の違いについて十分理解・意識していない(34%) ③接続した教育課程の編成に積極的でない(23%)となっている²⁾。

2 研究の目的

幼小のスムーズな接続のために取り組むべき内容が、調査研究協力者会議から以下のステップ0からステップ4までの5段階として示されている。

①ステップ0「連携の予定・計画がまだない。」 ②ステップ1「連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。」 ③ステップ2「年数回の授業、行事、研究会などの交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施はまだ行われていない。」 ④ステップ3「授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。」 ⑤ステップ4「接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、さらにより良いものとなるよう検討が行われている。」

しかしながら、直近(平成25年度の文科省)の実態調査によっても、「幼小のスムーズな接続のための取り組みはかなり進んでは来ているがまだまだ不十分であり、期待通りの成果が上がってはいない。」とされている²⁾。幼小のスムーズな接続はどこまで進んでいるのか、幼小の交流のステップから先になかなか進めないでいる要因は何かを直接的な当事者である幼稚園・小学校・保護者へのアンケート調査で具体的に探っていきたい。

第2章 研究の方法

1 アンケート調査

(1) 対象者

私立幼稚園17園 …………… 28人
小学校1年生担任…………… 12校12人
年長組保護者…………… 34人

(2) 調査内容

小1プロブレムの問題、幼稚園での保育と小学校での教育、幼小交流会について

(3) 手続き

幼稚園・保護者 卒園前の3月に実施、回収
小学校5月に実施、回収

(4) 分析方法

自由記述の個所では、出された回答に対し内容分析を行った。自由記述データを対象とし、それぞれのデータを意味が成り立つ項目に分け、得られた項目についてKJ法を活用して分類した。

第3章 アンケート調査の結果

1 幼稚園年長担任へのアンケート

私立幼稚園23園の園への年長担任へのアンケートで、17園、28人の担任から回答を得た。

(1) 小学校との接続について

1) 小学校との教師同士の交流会

○行っていない 4園

○行っている 13園

① 回数

回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回
実施園	4園	2園	4園	1園	2園	1園

② 内容

○今年度の交流活動の相談や打ち合わせ

○幼小連絡会（子どもたちの様子の情報交換）

【考察】 教師同士の交流会を行っていない幼稚園が4園で、全体の24%を占める。

幼稚園の規模には、大規模園もありまた小規模園もある。それぞれの園で進学先の小学校も少ないところから、8つの小学校に上がる園もあり、交流のやりにくさが伺える。

内容としては大きく2つである。子どもたちの情報交換、交流活動の打ち合わせである。

具体的に良い点として以下のことが挙げられた。

○卒園児のその後

- ・子どもの現段階の状況を聞くことができる。
- ・卒園後の子どもたちの様子を知ることができる。

○現年長児の配慮事項など

- ・園での様子やその子の性格などの情報を知らせることで安心して送り出せる。
- ・園で個別に指導していること、注意してほしいことなどを伝えることができ、入学後も配慮してもらえる。

○保育の進め方（幼稚園での準備）

- ・小学校までいどの程度身に着けるべきか現場の先生から聞くことにより保育の進め方に工夫ができる。
- ・就学した子の様子を知ることができ、これからどんなことを園でも取り入れたほうがいいのか知ることができる。

○子ども同士の交流会の打ち合わせ

- ・事前に交流について話し合うことができる。

・子どもたちが交流を楽しめるように事前の打ち合わせができて当日スムーズに交流を楽しめている。

年長児の様子を小学校へ伝えるとともに、就学した子の様子を聞き、園での保育に取り入れるなど幼小のスムーズな接続に役立てているという回答も見られた。改善点としては十分な話し合いのための時間設定の問題が上がった。特に3月に集中し、就学先が多い幼稚園では教師同士の交流のネックとなっている。

2) 子ども同士の交流

○行っていない 1園

○行っている 16園

① 交流会の回数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	合計
実施園	2	5	3	3	1	1	0	1	16

② 内容

内容としては園児と1年生との交流、他学年との交流があり、場所は幼稚園、小学校である。

ア 幼稚園での交流

- 5月小学生が「町探検として」幼稚園での子どもたちの様子を見学しに来る。
- 2年生町探検
- 6年生職場体験
- 2回目は幼稚園でネイチャーゲーム
- 5年生による保育士体験（年3回）
- 小学生が園に来ての交流
- 5月は園に5年生が訪問してくれて小学校の生活を紙芝居で伝えてくれたり、一緒に遊びを進めたりしてくれた。
- 5月、幼稚園に来てもらい一緒に歌を歌ったり粘土やお絵かきをしたりする。

イ 小学校での交流

- 11月小学校に行き、1年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんと遊んでもらったりして、小学校での様子を教えてもらう。
- 学習発表会見学
- 校内探検交流
- 小学校に行き、校庭で遊んだり、手作りおもちゃで遊んだり昔遊びを教えてもらった。
- 6年生が招待して、ゲームなどで遊ばせてくれる。体育館で小学生が用意したコーナー遊びを小学生と一緒にペアになって回っていく。

- 自己紹介ゲームや製作や小学校探検などして遊んでいる。
 - 3回目は小学校で製作
 - 9月は小学校でふれあい遊び（ペアと旁絵本を読んだりお絵かきをしたり……）
 - 12月は小学校で園児がハンドベルと歌を披露する。
 - 小学校ではどんなことをするのか、わかりやすく紙芝居やクイズなどで教えてくれる。
 - 小学校の生活発表会のリハーサルを見させていただいた。
 - 小学校でふれあいゲーム
 - 就学前の交流（2年生） 学習発表会
 - 小学校へ行き、お店屋さんで遊ぶ。
 - 11月は小学校に訪問し、体育館で5年生が教えてくれたコーナー遊びに参加した。
 - 1・2年生との交流、6年生リトルティチャーズひらがな教室など。
 - 6月小学校へ行き、七夕飾りの願い事を書いてもらったりして七夕飾りをする。
 - 11月5年生と一緒に学校探検をする。
 - 11月1年生との交流、1年生が準備してくれた秋の遊び（どんぐりコマ、けん玉）などをする。
 - 10月1年生との交流、(ドッチビー)、2月給食体験5年生
 - 5月、2月は会って触れ合う程度、10月はゲームをしたり発表しあったりして密にかかわって遊ぶ。
 - シャボン玉遊び、秋の自然物を使ったおもちゃ遊び、学校探検。
- ③ 交流会の成果・子どもたちの変化
- 抽出されたグループは以下の3つである。
- 小学校への期待・憧れ・不安の解消 19人
 - 園での遊び・生活に生かす 11人
 - 年下の子のお世話 5人
- ア 期待・憧れ
- ・学校はすごく楽しいところ、またお勉強を頑張るところだと小学校への期待が高まっている様子で文字のワークの際や話を聞く際に行儀も良く気持ちが引き締まっている様子だった。
 - ・小学校がどのような環境かを知り、「早く小学校に行きたい」と不安から期待一杯の表情になった。
 - ・私自身が交流会を1年の中で何度も行うのは初めてだったので、以前の年長組の子とは違う部分が多く見られた。具体的に子どもたちの小学校に対する意識が違い、今年は小学生になったら…という期待を持っている子がすごく多かった。交

交流会をすることで小学校のことも知れ、良い経験になっていると思う

イ 遊び・生活

- ・秋の交流会後には1年生が作ってくれた玩具と同じ玩具を自分たちなりに工夫して作り楽しむ姿が見られた。3学期の交流会は学校探検であったが、どこで何をするかを知り、就学が楽しみになっているようであった。
- ・小学校で行ったゲームを園で遊んだり、小学生から後日手紙をいただいたので返事を書いたりした。
- ・自由遊びの中で小学生ごっこをしたり、言葉遣いを敬語で言ってみたり小学生を意識している行動が見られた。

ウ お世話

- ・幼稚園で最年長として年下の子のお世話をするようになり、友達同士で小学校のことを話し合うなど会話力もついてきたように思える。何事にも意欲的に取り組む姿など多く見られるようになった。
- ・小学生が優しく接してくれた後はより一層小さい子に言葉かけやかかわりが増えてきた。年上のお兄ちゃん、お姉ちゃんに優しくしてもらい自分も優しくする姿が見られた。
- ・自分たちも年下の子へ何かをしてあげたいという気持ちや、園の中で一番自分たちが年上なんだという気持ちが育った。

【考察】 期待・憧れ・不安の解消が最も多く19人(54%)が回答をした。実際に自分の目で見たり体験したりすることは不安を解消するとともに期待を高める。行くこと自体意味があるし、さらに小学生と交流することで、より身近に楽しみにすることができる。小学校に行っているいろいろな体験をすることも楽しみであろうが、それ以上に顔見知りのお兄ちゃん、お姉ちゃんに会えることが楽しいという意見も見られた。交流会中の様子を尋ねた質問には以下のような回答が寄せられた。

- ・小学校に行くことを楽しみにする半面、新しい場所ということで緊張している子もいた。1年生に優しくしてもらい嬉しそうであった。
- ・緊張している子もいれば少しずつ打ち解けている子もいた。1年生との交流では知っている子もいたので、会えるのを楽しみにしていた。
- ・1日目は緊張していた子どもたちも、お兄さん、お姉さんと会うことを楽しみにしたり、幼稚園では一番上でお世話をよくしている子が逆にいろいろとしてもらったりして嬉しそうなお姿があった。また、遊びに没頭する姿や、互いの交流ができたことも回答された。
- ・遊びを教えてもらい、目を輝かせて取り組む姿が見られた。

・お互いが思いやり知らないことを丁寧に教えていた。

次に多かったのが園での遊び、生活に生かすという回答で11人（31%）が回答をした。小学校との交流が、深く印象に残った様子であり、しばらくは小学校のことをまねしたり、教えてもらった遊びを続けたりしている様子が伺える。

お世話には5人（14%）が回答をした。経験することで年下の子どもに対する接し方を学んだようであり、体験から学ぶ幼児教育の姿が現れている。

④ 交流会を通して幼稚園で育てなければならないと感じたこと。

- 積極性、表現力、協働性、コミュニケーション力 7人
- 話を聞く力 4人
- 環境への順応・長時間の活動 2人
- 言葉遣い 4人

ア 積極性、表現力、協働性、コミュニケーション力

- ・意欲的に自分から体験に参加できるようにする。
- ・感想を言う機会を増やす。
- ・友達同士で教えあい物事を進めていく力。
- ・何事にも興味関心を持つこと、挑戦しようとする気持ち

イ 話を聞けるように4人

- ・話を集中して聞く力（態度姿勢）
- ・長時間話を聞く態度

ウ 環境への順応3、長時間の活動2

- ・トイレが様式だったが、小学校では和式になること
- ・時間内に着替えること、時間内に食事を済ませること
- ・長い時間座ってられるようにする。

エ 言葉遣い4人

- ・教師との会話（言葉遣い）小学生の常に「…です。…ます。」を使っている点は年長進級時から行っていくと身につくと思うので取り入れていきたい。
- ・言葉遣い「…しますか?」「…です。」3学期ごろから言葉遣いは伝えているものもう少し早い段階から教えてもよいのかと感じた。
- ・名字で呼ばれること、呼ぶことを意識づける。

【考察】 小学校の学習に直接かかわる「積極性、表現力、協働性、コミュニケーション力」を挙げた回答が7つ見られた。小学校での学びが成立する大事な要素であり、幼稚園でそれらの項目を育てるためにはどんなことが必要かという次へとつながり発展していく項目である。長時間という回答が3つあった。我慢する力を育てる必要があるということで、自分がしたいことがあっても、

周りの状況を考え自分を抑えることも大事という気持ちを育てることが必要という回答であるが、「我慢する」「粘り強く」はそれ自体が目的ではなく、他の活動を通して養われていくことに注意する必要がある。

交流会は子どもたちの就学への不安をなくし期待を膨らますなどの効果はあり、成果を上げているが、スムーズな接続のためには何が必要かに教師が気づく交流会となるためにはどうあるべきかの検討が必要と考える。特に交流会を通して幼稚園で育てたいことを感じたことはないと回答した保育者が12人(回答者の43%)いたということは、交流会の在り方を検討しなおす必要があると考えられる。幼小交流会が行政からの改革に終わらず、教師自身からの改革につなげていくための交流会の在り方を検討していく必要があるだろう。そのためにも子どもの学びを見る目を日ごろの保育で養っていく必要があると感じられる回答であった。

幼児教育は小学校教育の準備期間ではないということは常に言われ続けてきたことである。準備期間ととらえると読み書きや計算、長時間椅子に座る練習などに終始してしまうことになりかねない。確かにそのような指導が必要な面もあるが、それは幼児教育の本質ではない。幼児教育を小学校以降の教育の土台ととらえ、一人一人の子どもに対して長期的な視野を持った援助をする必要がある。また、交流会での遊びの中に潜んでいる学びにも目を向ける必要があるだろう。情緒の育ちを含めた「学び」をしっかりとつかんでいくことが大事である。小学校へ行っての交流活動はあらかじめ決められたものであるが、それらの活動を通しての学びの芽生えをしっかりと保育者は把握する必要があるだろう。特に幼小の接続を考えた場合、①学びの自立 ②生活上の自立 ③精神的な自立の3点から子どもの姿をとらえることが重要である。

(2) 小学校の教育について

1) 小学校教育について、今まで大学での講義を含め学びましたか。

○学んだ 14人

○学んでいない 14人

2) 小学校に望むこと

小学校に望むこととして自由記述で提出されたものについて、以下の4グループに分類した。

○子どもの実態に即した扱いをして欲しい。

○個性を大切にしたい。

○保護者への連絡を密にしたい。

○小学校との交流を深めたい。

- ① 子どもの実態に即した扱いをして欲しい。
 - ・幼稚園では最年長児扱いですが、小学校に行くときと最年少児扱いでとても細かく親切にされてできることも手伝っていただき、急に小さい子ども扱いになり戸惑っている様子が見られる。
 - ・幼稚園では年長としてしっかりやっていたのに小学校では赤ちゃん扱いにされている。もっとできることはやらせてほしい。
- ② 個性に関すること
 - ・一人一人の個性を大切にしながら、いろいろなことに挑戦させてほしい。
 - ・難しいとは思いますが、個々に合わせた配慮をお願いしたい。
- ③ 保護者との連絡
 - ・幼稚園はお便り帳やお迎えなどで保護者との連絡や関係を密に行っているが、小学校は担任の先生と話す機会が少なく、子どもの状況で不安になる保護者も多いようなので、そこを理解していただきたい。
- ④ 小学校との交流
 - ・教師同士の交流を深める。互いの実習。
 - ・交流会での時間調整が難しいので、年度初めにお話しする機会があるとよいと思う。
 - ・小1プロブレム解消のため、実際に小学校に入学して子どもたちや教師が具体的にどのような点で困っているのかを知りたい。
 - ・保育者が実際に学校へ行き1日を過ごしたり、教師が園に来て保育をしたりする。1日の流れをお互いが知ることで子どもたちがギャップを感じずに過ごせる環境や必要なことを知る。

【考察】 子どもに応じた接し方をしてほしいという回答が多くなされた。特に幼稚園では、年長として行事を進めていったり、年中児・年少児の面倒を見たりする立場だったのに、小学校では最年少で何もできないと扱われることに対する不満である。できることはたくさんあるので、子どもの実態をしっかりとみてほしいという意見である。1年生だから何もできないのではなく、幼稚園でたくさんのことを学んできているので、そこを大切にしてほしいということであり、幼稚園と小学校との段差がうかがえる意見だと感じた。小学校1年で0からのスタートではなく、様々なことを経験して一人一人が身に付けてきていることを生かしながらスタートしてほしいという願いであるし、接続期における小学校には、「今の学びがどのように育ってきたかを見通した教育」が求められる。

個性に関することでは小学校では集団での指導を主とし、一時間一時間の

到達目標が決まっているのに対し、個人個人の成長、経験を大切にする幼稚園での教育内容と指導方法の違いが出てきている。小学校での、幼児教育に対する理解が問われる回答であろう。

小学校との交流を深めたいという意見もあった。意見交換にとどまらず、互いの保育、授業を経験することで理解しあうことの必要性を述べている。また、保護者との交流も挙げられた。幼稚園と小学校との保護者への対応が違うことへの戸惑いが見られた。集団としてみる小学校と、一人一人の成長を見る幼稚園教育の差が見られる。

気になる意見として、「指導要録を送っても、見られているか疑問です。うまく活用してもらっているのかどうかお聞きしたいです。」というのがあった。一人一人の記録を時間と心を込めて作成している要録であるが、活用の仕方については、まったく知らされない。要録を中心としたフィードバックがあると良いと考えられる。

3) 小1プロブレムについて

○知らない 10人

○知っている 18人

知らないとの回答が36%もあった。小1プロブレムは学校で起こっている問題なので、このような数字になったのかもしれないが、その原因として幼児教育にある場合があることを考えると、園で、また年長担任同士で話題になってもいいことかもしれない。

4) 小学校への準備

小学校への準備としてどんなことをすればよいかの問いに回答された自由記述に対して内容分析を行い、8つの項目に分類した。

○基本的生活習慣 14人

○コミュニケーション 12人

○時間内・集団生活 4人

○自立 4人

○道徳性 8人

○学習 12人

○環境 5人

○意欲・期待を高める 6人

① 基本的生活習慣を身に着けさせる

- ・自分のことは自分ですることを意識づける。持ち物の管理や準備も自分でできるようにしておくこと

- ・準備片付けなど身の回りのことはしっかりと自分でできるようにする、
 - ・基本的な挨拶ができること。
- ② コミュニケーション能力をつける。
- ・人の話をきちんと聞くことができる態度を身に付けておくようにする。
 - ・友達、先生とのコミュニケーション能力。
 - ・集団で話を聞き、理解して動く。意思表示を言語でして相手に伝える。
 - ・人の話を最後まできちんと聞き、自分の思いを伝えること。
 - ・人の話を聞くときは私語をせず相手の目を見て聞くことができるようにする。
- ③ 自立
- ・自分の身の回りのことはできるようになること。
 - ・自分で考え行動する力を伸ばす。
- ④ 時間内・集団生活
- ・時間内に何でも行えること。
 - ・食事、着替えなど時間内に終わらせる（人に合わせることができるようになること）。また、時間を意識して行動させる。
 - ・集団行動がとれるようにする。
- ⑤ 学習
- ・様々なことに興味関心を持つこと、何事にも意欲を持って取り組もうとすること、頑張ろうとする心、共同性、文字に関心を持つなどを日々の保育、行事の中で育てていくことだと思う。
 - ・文字の読み書きや最低限はさみなどが使いこなせるようになること。
 - ・様々な経験を通し、自信をつけ最後までやり遂げる力をつける。
 - ・ひらがなが読めること。
 - ・正しい鉛筆の持ち方、ひらがなの書き方など。
 - ・文字に興味を持ったり読めたりするように。
- ⑥ 道徳性
- ・道徳性を育てる。
 - ・周りに対して思いやりの心をもって接し、相手のことも考える。
 - ・良いこと、悪いことのけじめをつけて判断ができるようにする。
 - ・人への感謝の気持ちや思いやりを持った行動を育てる。
 - ・ルールを守って友達と楽しく遊べる。
- ⑦ 環境
- ・和式トイレの使用。
 - ・トイレの使い方。

- ・保護者へは通学路を一緒に歩き、下校の練習など。
- ・園では使わなかった傘を使ったり和式トイレを使ったりしてみるように伝えている。

⑧ 意欲・期待

- ・小学校への期待を高める。
- ・交流などで小学校について知りよりイメージしやすいような経験を持ったり、楽しみや期待を膨らませたりして入学するようにする。
- ・小学校がどんなところでどんなことをするのかなど子どもたちの不安を解消し期待が持てるように日々の生活に取り入れていけたらと思っている。そのためにも交流を通して体験できることが一番良いと思っている。

【考察】 基本的な生活習慣をつけるが最も多く14人が回答した。これは回答者の50パーセントを占める。自立のための基本と考えているからに他ならないし、幼児教育で大事にしているところでもある。次いで、人とのコミュニケーション、学習が12人を占めた。人の話を最後まできちんと聞き、自分の思いを伝えることができるようにするということであるが、人の話をきちんと聞くことができる態度を身に着けておく、人の話を聞くときは私語をせず相手の目を見て聞くことができるようにするなど、自己主張の多い幼児期であるので聞くことに主眼を置いていることがわかる。

学習には12人が必要性として挙げた。ひらがなが読める、書ける、鉛筆の正しい持ち方、等の技能面から様々なことに興味関心を持つこと、何事にも意欲を持って取り組もうとすること、頑張ろうとする心、協同性、文字に関心を持つ、様々な経験を通し、自信をつけ最後までやり遂げる力をつける態度面まで幅広く回答を得た。技能面も大切だが、興味関心、協同性、意欲、やり遂げる力など態度・情緒面を挙げた回答もあった。

道徳性では卒園までに育ってほしい姿として文科省は道徳性・規範意識の芽生えとして、友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことがわかり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになると挙げている。回答の中身も、相手を思いやる心、相手のことも考える、良いこと、悪いことのけじめをつけ判断ができるようにするなどを重要視している。

2 小学校1年担任へのアンケート

(1) 幼稚園・保育所との交流について

1) 幼稚園・保育所との交流について

○幼稚園より保育所との交流が圧倒的に多く、幼稚園のおよそ2倍が保育園である。

学校平均2弱の保育所または幼稚園と交流を行っている。

2) 交流会のカリキュラム

○1年生は生活科の授業として学校で交流活動を実施、2年生は「町探検」として幼稚園や保育所訪問、5年生は総合的な学習の時間で保育士体験などとして保育所で実施している。

3) スタートカリキュラム

「ある」という回答が「ない」という回答を少し上回った。

4) 幼児教育について大学で学んだかどうか

学んだ(7人)という教師が学んでいない(5人)と回答した教師よりやや多かった。

(2) 1年生のこと

1) 小1プロブレムについて

ほとんどの教師が知っているという回答

2) 原因について

①家庭の養育態度 ②社会環境 ③幼稚園と小学校との教育内容・指導方法の違いが原因として多く回答された。

3) 入学までに身につけて欲しいこと

- ・食事、片付けなどの基本的な生活力。
- ・自分で着替え。
- ・自分のことは自分でやろうとする力、人を思いやる心。
- ・挨拶ができる。
- ・自分で服の脱ぎ着ができる。
- ・食事の好き嫌いをへらす。
- ・語彙力。
- ・基本的生活習慣。
- ・決まった時間我慢して席に着く、早寝早起き、話す人を見て黙って話を聞く。
- ・自分のことは自分でする、箸をうまく使う、偏食しない、45分間席に就ける。

4) 幼稚園・保育所に望むこと

- ・支援が必要な子どもについて詳しく知りたい。
- ・朝顔は1年生で育てるので幼稚園ではできれば育てないでほしい。感動が薄れるので。
- ・クレパスの持ち方は鉛筆の持ち方に合わせてほしい。なかなか修正できないので。
- ・名前を呼ばれたら返事をする。
- ・聞かれたことに対してできるだけ言葉で答える。

- ・失敗を恐れない態度。
- ・言葉遣いや姿勢などの指導。
- ・自分のことは自分でする習慣を身につける指導。
- ・トラブルを自分で解決できるように。

指導要録のこと

- 5) よく読んでいるが3人、配慮がいる子だけ読んでいるが4人、読んでいないが3人であった。その他が3人であり13人の回答者のうちよく読むが3人であった。

(3) 子どもの姿

【考察】 幼小連絡会は、自治体によっては昭和60年代より行われていたが、子ども同士の交流会は平成21年度から全面実施された新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針や平成23年度から全面実施された小学校学習指導要領において幼小接続に関して相互に留意する旨が規定されてから広がっていった。アンケート回答校ではすべての学校が何らかの子ども同士の交流会を持っていた。学校数に対して幼稚園・保育所の数が多いので複数の園と交流会を行っているのが現状である。交流会の位置づけは、生活科（1・2年生）、総合的学習の時間（5・6年生）が圧倒的に多く、小学校は明確な目標と内容でカリキュラムに位置付けていることがわかる。そこでは児童が目標にどう到達するかが問題であり、幼稚園の保育内容、指導方法を理解するには至らない。幼小のスムーズな接続に関しては、授業や児童を評価すると同時に、園児の育ちをみるという視点が必要となろう。その育ち（幼稚園教育の土台）の上でどう小学校教育へとつないでいくかが問われていく。スタートカリキュラムについては、あるという学校がやや上回った。（指導要録に目を通さないという教師が多いのと合わせると、小学1年生の学びがどのように育ってきたかを見通した教育がなされておらず、0からのスタートという意識が強く表れている。）

入学式から1か月経過した1年生に関して、入学までに身につけてほしいこと、幼稚園保育所に望むことを聞いた。「偏食をなくしてほしい」、「箸の持ち方を教えてほしい」など家庭でのしつけに関する記述も多く含まれ、「長時間椅子に座っておけるように」など幼児教育の本質ではない回答も見られ、幼児教育と小学校教育の段差を感じた。

3 幼稚園保護者へのアンケート

A幼稚園年長組保護者（105枚配布 59枚回収 有効回答34枚 無回答25枚）

(1) 小1プロブレムのこと

○知っている 7人

○知らない 27人

(2) 原因 (7人回答: 下記は代表的意見)

- ・楽しい幼稚園から勉強が主となる小学校へいきなり変わることへの戸惑い
- ・生活環境が変わって順応できていない。
- ・環境ががらりと変わる事。大人は幼稚園と小学校との違いは認識しているのに本人がきちんと理解するには幼いこと。

(3) 現在不安に思っていることや心配なこと。(10人回答)

○友達のこと 4人

○授業のこと 3人

○その他 3人

- ・一人で小学校まで歩いていけるか、4月3日より学童を利用するが入学前で同じクラスの子もいないし、同じ幼稚園出身の子もいない。友達がすぐにできるか心配。
- ・授業中ちゃんと集中できるか、授業についていけるか。

(4) 小学校のことで詳しく知りたいこと

○学習のこと 9人

○PTA活動 5人

ア 学習のこと

- ・学校の授業だけでついていけるのか、習い事をしている子が多いので。
- ・授業の進むスピードや、入学前までにできるようになっていたほうが良いことなど。

イ PTA活動

- ・年間予定、役員のこと
- ・どのようなPTA活動があるのか。
- ・PTA活動はどの程度の頻度であるのか、仕事との両立ができるのか。

【考察】 小1プロブレムについては、社会問題となっているが知らないという保護者がほとんどであった。また不安なことでは授業と友達のことが挙げられ、知りたいことにはPTA活動が加わった。幼小のスムーズな接続は幼稚園・保育所、学校、保護者が連携しながら解決にあたっていく必要がある。幼稚園・保育所の保護者と学校との交流が何もないところに問題がある。忙しい学校現場ではあるが、幼稚園・保育所の保護者が一体となって課題に対処していく必要があろう。交流が望まれる。

第4章 全体考察とまとめ

今回の調査では、段差の解消に向かわない2つの点が見えてきた。1つは、幼児教育を小

学校の「準備教育」と考え、読み書き計算、長時間椅子に座らせる練習などに終始してしまうケースが多く見られた点である。子どもたちの興味・関心を看取ることなく、聞く練習、座る練習、ひらがなの練習をさせることは教育実践上好ましいとは言えず非効率であるばかりではなく、無理強いしたり強制したりすることに終始すれば、小学校から始まる教科学習に対する嫌悪感も抱きかねない。幼児教育の本質は、園児が興味関心にに基づき、様々な活動に取り組みせ、集中力や最後まで取り組む根気強さを養い、活動から生まれる気付きを大切にすることである。気付きは学びにつながる。年長の後半は接続期としてカリキュラムにきちんと位置付けることが大事である。この時期は自覚的な学びの芽生えが育ってきており、教師が方向づけた課題に対して、数人の気の合った仲間だけで活動するのではなくクラスとして目的を意識したり、自分の役割を理解したりし、集団として取り組み、できた時の達成感をみんなで味わっていく活動が大事になってくる。そのことが小学校からの教科学習につながっていく。

2つ目は遊びの中の学びを保育者が看取するということである。遊んでいればいいという発想では学びはなかなか生じず、幼児教育で遊びが大事というのは、その中に「学び」があるということ認識する必要がある。幼小の交流会を通して幼稚園で育てなければならないと感じたことが何もないとの回答が50パーセントを超えていることは、交流の中にみられる子どもたちの学びを看取っていないことが考えられる。経験カリキュラムによる保育によりともすれば「～を味わう。」「～を経験する。」に終始して「育ち」の視点から子どもたちを見ることができにくくなっている可能性もあろう。新しく採用された保育者が現場でどう育っていくかという視点で見たときに、そのことはさらにはっきりとしてくる。小1プロブレムや小学校教育についてほとんど学ぶことなく保育現場に配属されると、現実目の前で起きている様々な課題にあたることとなる。洋服の着替え、身の回りの整理整頓のさせ方、おむつトレーニング、さらには教師の指示が聞けない子どもたち、子ども同士のぶつかり合い等々。日々の問題の解決に忙殺されることとなるが、保育現場で蓄積されてきたそれらの課題に対するノウハウは素晴らしいものがある。それば先輩教師から後輩へと受け継がれていく。日々の問題解決の対処の仕方を学んでは行くが、子どもの日々の学びにまで考えが及ぶことは少ない。交流会の中から子どもの学びに関する回答は一部にとどまった。

今回の調査では、小学校への準備教育ではない保育の本質をしっかりとらえること、遊びの中の子どもの学びをしっかりとらえること、接続期の保育を作っていくことが幼小のスムーズな接続に大事であることが 幼小交流会を分析する中で明らかになった。

平成30年度実施の教育要領で卒園までに育ててほしい姿が具体的に示されたが、これは小学校でのスタートの姿であり、スムーズな接続はこれを契機に進んでいくと感じられるものである。幼稚園では、示された10の姿を園児の姿と重ねることで、育てていかなければならない観点が明確となろう。それは幼児教育の在り方を見直す契機となりうる。年長児後

半の保育だけにとどまらず、年中、年少時の保育の見直しにも通じる。

最後に幼小接続に対する保護者の役割について考えておきたい。幼稚園の保護者と小学校との結びつきの希薄さである。夏休みなどを利用し、小学校からの情報提供の場が必要であろう。小学校教育、入園してきた子ども達の情報は、保護者の新しい環境に対する不安を軽減するとともに、家庭教育の役割の見直しへと進み、(小1プロブレムへの関心の高まりは、) 幼小のスムーズな接続に大きく前進する一因となろう。

引用参考文献

- 1) 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議」報告書 平成22年11月P、2
- 2) 「幼小接続座長試案」初等中等教育局幼児教育課 平成22年12月
- 3) 「スタートカリキュラムスタートブック」学びの芽生えから自覚的な学びへ国立教育政策研究所平成27年1月
- 4) 「保・幼・小連携でのびる子どもたち」高知市教育委員会保・幼・小連携実践事例パンフレットⅡ平成28年3月
- 5) 「教育課程改善の方向 幼児教育における改訂の具体的な方向性」初等教育資料平成29年3月号
- 6) 白石崇人『幼児教育とは何か』2013年発行社会評論社
- 7) 白石崇人『保育者の専門性とは何か』2015年発行社会評論社

Actual Condition and Challenges of Early Connection

Yasuo OE, Yoichi NAGATOSHI

Kyushu Women's Junior College Department Childhood Care and Education

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kita Kyushu-shi, Fukuoka, 807-8586, japan

Abstract

Smooth connection of young children is different depending on local governments, efforts to resolve the difference in early childhood education and elementary school education are considerably advanced. Especially the young children's exchange meeting (speaking only for the local kindergarten) is carried out in most kindergartens. However, it can be said that it is still inadequate to create a connection curriculum which is the next step. The purpose of this research is to investigate the actual situation of efforts for smooth connection of young children and to focus on the interchange meeting for young children and to consider the way of exchange meeting to eliminate steps and to explore the problem.